

第1回 高度医療人材養成拠点形成事業 外部評価委員会 講評

2026年7月10日(金)に外部評価委員会を開催し、事業開始(2024年8月)から2026年3月までの取組状況についてレビューを行った。

本事業は、医師の働き方改革を進めながら、医学生及び医学系大学院生に対して、大学病院において、効果的な臨床実習の実施や、研究活動に参画する機会を確保するとともに、教育研究支援者を活用し、研究体制の強化により臨床研究を推進することで、臨床教育・研究に関する知識・技能等を有する優れた医師を養成し、我が国の医学・医療の発展や研究力の強化に貢献することを目的としている。そのため、臨床参加型臨床実習の充実、研究者の負担軽減、研究時間の確保等への対応について、関連部署の取組み・今後の展望についてレビューを実施した。

以下、各委員からの意見である。

○プロジェクトの進捗について

- ・全体的に先進的な取組みがされており、着実に進んでいると理解できる。
- ・最終的な成果となるものが十分に示されていないと思われる。研究論文数の維持増加、医師の教育研究時間の確保といったところがベースラインに対してどれぐらい動いてきているのか見えるとよい。今後に向けては、この指標を積極的に提示いただきたい。
- ・本事業は東北大学全体の取り組みということなので、例えば東北メディカルメガバンクなどの辺が絡んでいるのかなど、総合大学として関連する部局が絡んでいることがわかる見せ方をしていただきたい。

○医学教育について

- ・スキルスコープについて、医行為の可視化ということで非常によい取組みであるが、実施記録が学生の自己申請とのことで、その後の指導医の承認・評価が加わることで、到達度の視点が強くなると考えられるので、ぜひ検討いただきたい。
- ・出力のところでAIを使うとのことだが、学生の氏名とか医行為の記録が、外部の生成AIに扱われるということは、倫理的あるいは個人情報の取り扱いがどうなるのか気になる点である。
- ・SGTの単語は、東北大学以外では通じない言葉だと思うので修正が必要である。外で発表する場合には、SGTではない方がよい。

○医療DXについて

- ・職員に対するDXツールの導入支援等については、医師が研究に入れるかが鍵を握っていると思われるが、その対応がきちんとされていることは素晴らしい。

- ・ A I サポートデスク、診療記録入力支援システムなどについても素晴らしい取り組みである。

○医療データ利活用の取り組み

- ・ MDUC の法的に可能でも社会的同意が不十分であって、大学としては企業に提供を行わないという判断、これは非常に責任のある大学の見識として高く評価できる。

○働き方改革への取り組み

- ・ 働き方改革の改善によって、医師の時間外労働が減少したか、研究、あるいは教育時間がどれだけ確保されたか、サポートによって、倫理審査期間がどれぐらい短縮されたかなどがあるといよい。

以上を踏まえ、総評としては次のとおり評価する。

- ・ 事業の進捗は良好であり、各部署の先進的な取り組みを高く評価する。
- ・ 医学教育におけるスキルスコープの開発は非常に良い取り組みである。
- ・ 成果目標に対し、その過程を提示できるよう検討してほしい。
- ・ 他部局との連携など総合大学としての取り組みを検討してほしい。

2026 年 8 月 10 日

高度医療人材養成拠点形成事業

外部評価委員会

委員長 八重樫 伸生



東北大病院1

東北大病院研...

東北大病院研究推進課



東北文化学園大学 加賀谷豊



柴田 近 (東北医科薬科大学)



高田亮

susumu fujii

susumu fujii

研究推進課__小野

研究推進課__小野

東北大病院研...

東北大病院研究推進係

Masahiro Jinzaki

Masahiro Jinzaki